**広報おおさき３月号　2024　No.216**

**今月の表紙**

国の伝統的工芸品に指定されている「鳴子こけし」の生産地である鳴子温泉地域では、桃の節句を前に、良縁や成長を願う「ひな人形こけし」作りの最盛期を迎えています。

鳴子温泉地域のこけし工人の中で最年少のさんは、師匠である父さんと共に、日々「こけし」や「ひな人形こけし」などの製作に励んでいます。

鳴子こけしは胴が太く安定感があり、はめ込み式の首を回すと「キュッキュッ」と音が鳴るのが特徴です。胴の模様は菊を中心とした華やかなものが多く、顔はあどけなく、純粋な子どもの心を思わせるようなほほ笑みで、そのいとおしい表情は見る人を魅了します。

鳴子温泉郷の温泉に入りながら、こけし工人の店を回り、お気に入りの「ひな人形こけし」を見つけてみませんか。

写真：松田大弘さんが製作したひな人形こけし

**Main Contents　目次**

04 4月1日から施設の使用料などを改定します

06 市の組織機構が変わります

07 交付金でよりよい暮らしになりました

08 健康な生活を送るために～国保の医療費から考えてみよう～

09 新型コロナウイルスワクチン接種情報

10 CITY TOPICS

11 Discover OSAKI

12 OSAKI Culture

13 オオサキプレイガイド

14 くらしの情報

休日部活動地域移行推進計画（中間案）に対する意見を募集します　ほか

24 子育て支援情報 ほか

26 相談コーナー

27 休日救急当番医 ほか

28 MainDish

**大崎市公式SNS発信中です！**

問い合わせ 秘書広報課広報広聴担当 電話23-5023

　市公式・（旧）・・は、行政情報だけではなく、観光やイベント情報も盛り込み、充実した情報をお届けします。二次元コードから、登録をお願いします。

**みんなで知ろう！考えよう！行動しよう！Let's！男女共同参画**

問い合わせ まちづくり推進課男女共同参画推進室 電話23-2103

**～Vol.10 第4次大崎市男女共同参画推進基本計画**

　市では、男女共同参画の重要性を認識するとともに、取り組むべき課題を明らかにし、男女共同参画推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、第4次男女共同参画推進基本計画を策定しています。

　この基本計画では、「市民全員が、一人の人間として大切にされる社会」の実現に向けた、女性だけに対する施策にとどまることなく、子どもや高齢者、性的指向や性自認、国籍や文化、病気や障がいの有無、社会的立場にかかわらず、全ての市民が安心して豊かに生きるための総合的な視点が盛り込まれています。

　特に、男性も女性も家庭と仕事の両立ができるような、男性中心型労働慣行の変革や、あらゆる人に対する暴力を根絶するため、引き続き相談体制の充実や自立支援を推進していくとともに、暴力の未然防止の啓発に努めます。

　ぜひこの機会に、基本計画を読み、男女共同参画やジェンダー平等について考えてみましょう。

**ちおこらむ地域おこし協力隊コラム**

問い合わせ 政策課地方創生担当 電話23-2129

**Vol.11　鳴子こけしの伝統の奥深さを学んでいます**

　鳴子総合支所地域振興課に所属している「ちおこ（地域おこし協力隊）」の渡辺です。

　鳴子こけし工人の見習いとして修業を始め、約10カ月が経過しました。地域の皆さんに支えられながら、こけしの製作に励む日々です。

　修業は、「こま作り」から始まり、現在は鳴子の伝統こけしやそこから派生したのこけしも、少しずつ作れるようになってきました。

　昨年、初めて市外のイベントなどへ出展し、自分の作品を皆さんに見てもらうことができました。

　今後も、「鳴子こけし」の持つ癒やしや魅力を、市

内外の人へ伝えていけるよう、修業に励んでいきたいと思います。応援よろしくお願いします！

写真：渡辺隊員が製作した雪の中にたたずむこけし

**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

Vol.47　　大崎耕土インスタフォトコンテスト2023入選作品決定！

問い合わせ 農政企画課世界農業遺産未来戦略室 電話23-2281

令和5年8月から12月まで開催した「大崎耕土インスタフォトコンテスト2023」に1,058点の応募があり、審査の結果、グランプリ1点、準グランプリ2点、優秀賞10点が選ばれました。受賞者には大崎地域の地場産品が贈られます。

入選作品は、大崎地域世界農業遺産推進協議会のウェブサイトで公開しています。

大崎耕土を構成する1市4町の魅力ある風景を捉えた作品ばかりですので、写真から地域の魅力を再発見してみませんか。

写真：グランプリ受賞作品　タイトル「」 撮影者 中山 ちあき 氏（三本木地域在住）

**市長コラム　天地人**

**能登半島地震への支援**

　令和6年能登半島地震発生から2カ月になります。

　被害は甚大、復旧もまだ途上で、復興には長い時間を要する状況です。

　本市におきましては、国・県および関係機関からの要請に対する迅速かつ適切な支援の実施、および本市独自支援を検討、実施をするため、1月9日付で「能登半島地震・大崎市災害支援対策本部」を設置しました。

　これまでに「被災調査団の派遣」「段ボールベッドの送付」「被災家屋の調査業務のための職員の派遣」「給水活動のための職員と給水車の派遣」「保健師と業務調査員の派遣」「災害派遣医療チームと、看護師の派遣」を行いました。

　また、1月4日から本庁舎および各総合支所の窓口に災害義援金募金箱を設置するとともに、市内の小・中学校においても、募金活動が展開されました。団体・事業所等でも募金活動が展開されております。

　市役所と市民病院の職員からも募金を募り、被害が大きかった自治体へ支援を実施しております。

　私も、1月29日に石川県庁、石川県金沢市役所、姉妹都市である富山県黒部市役所に赴き、知事室長や、世界農業遺産の事務局である里山振興室長、石川県市長会長である金沢市長、黒部市長に、直接支援金をお届けするとともに、物資やマンパワーの派遣、二次避難の受け入れなど、今後の支援の申し入れを行ったところです。

　本市といたしましては、引き続き被災地に寄り添い、一日も早い生活の再建のためにも、可能な限りの支援を行ってまいります。

　市民の皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。